参考５

「(仮称)千葉県こどもの貧困に関する研修」カリキュラムに関するプレ実践研究
―事例演習を中心とした研修効果の検証と改善点の抽出―

気づきのためのチェックシート検討会

１　背景

千葉県では、「千葉県こども・若者みらいプラン(令和７年３月策定)」における、こどもの貧困対策の新たな重点施策として**「支援をひろげるための取組(周知啓発)」**を掲げ、こどもに関わる周りの大人がこどもの貧困に気づくことができるよう、多領域の支援者を対象とした研修を行うこととしている。

当該研修は、県が設置した「気づきのためのチェックシート検討会」において検討が進められ、

① 普及啓発を目的に、こどもの貧困問題の基礎理解を促す**「基礎研修」**

② 支援現場等での気づきと支援につなぐ実践力を育成する**「実践研修」**

の２段階研修の開発が進められている。

本研究（プレ研修）は、実践研修カリキュラム案を用い、**研修内容の妥当性・参加者ニーズ・演習手法の有効性** を検証する目的で実施された。

２　方法

（１）日時・会場

日時：令和８年２月２３日

会場：千葉女子専門学校

（２）参加者

保育士 9 名、SSW2 名、支援機関(生困、児家セン、子ども食堂)4 名、その他 2 名（計 17 名）

（３）研修構成（短縮版 180 分）

講義①：こどもの貧困の概要（30 分）

講義②：支援の現場からの報告（30 分）

演習（60 分）：

- 事例読み込み
- チェックシート活用
- ロールプレイを含む職場内共有
- 家庭へのアプローチ検討

（４）評価方法

・研修パートごとの５段階評価アンケート

・検討会委員による観察・講評・振り返り

3　結果

（1）講義

・講義①「こどもの貧困の概要」：平均 4.5

・講義②「支援の現場」：平均 4.7

具体的事例を通した説明の理解促進効果、データに基づく信頼性が高く評価された。

（2）演習

・事例読み込み：4.1

・チェックシート活用：4.6

・職場内共有（ロールプレイ含む）：4.5

・家庭アプローチ：4.4

チェックシートの有効性、ロールプレイによる気づきの深まりが評価された。

一方で、**時間不足・資料量の多さ・ロールプレイの目的不明確さ** が課題として示された。

（3）参加者自由記述

・「現場での気づきが増えた」「チェックシートは会議の組み立てに有効」

・「演習資料の整理が必要」「ロールプレイの位置づけ明確化を」

・「貧困＝悪と捉えない視点が必要」「早期発見・つなぐ仕組みの明確化を」

（4）検討会委員講評

・情緒的配慮の重要性、家庭背景の情報把握の必要性

・貧困と虐待要因の峻別の視点

・ストレングス記述が議論の質を高めたこと

・ロールプレイの効果を認めつつ、柔軟な運用の必要性

4　考察

①チェックシートは「気づきの均てん化」に有効

評価 4.6 と高い支持を得た背景には、

・視点の偏り・漏れが抑制できる

・初任者・異職種でも使いやすい

という利点がある。

一方で「情報が少ないと判断が難しい」という指摘があり、**活用には最低限の情報収集の枠組提示が必要** と考えられる。

②ロールプレイは学習効果が高いが、目的理解が不十分

ロールプレイは「疑似体験による理解深化」が得られた一方、

・前段のグループワークとのつながりが弱い

・目的が分かりにくい

という課題が出た。

特に、本番研修では参加者の経験値が多様であるため、**段階的・選択的なロールプレイ設計** が必要になる。

③ 研修時間と構成の再検討が必須

時短版で実施した結果、

・演習時間の不足

・情報量過多による認知負荷の増加

が顕著であった。

演習においてグループ内で気づきを深めながら実践力や連携力を育むためにも、**演習の時間確保や資料の見せ方の再考が必要** である。

5　提言

本プレ研修を踏まえ、以下の改善策を提言する。

【提言１】演習資料の再設計

- 重要情報の見せ方（色分けや単純化等）
- 事例のストレングス記述の充実

を行い、議論しやすい教材設計にする。

【提言２】ロールプレイの２段階化

- レベル①：台本付き（初心者向け）
- レベル②：アドリブ形式（経験者向け）

とし、参加者の経験に応じて選べるようにする。

【提言３】研修時間の最適化

- 演習中心型への再配分
- 講義は事前動画配信（オンデマンド）も検討

など、学習効果を最大化する構成にする。

6　まとめ

本プレ研修の評価から、

- データと事例に基づく講義の有用性
- チェックシート・ロールプレイによる気づきの深化

が確認され、本研修の方向性は概ね妥当であることが示された。

一方、**時間配分、資料構成、演習設計（特にロールプレイ）、多職種性への対応**には改善の余地がある。これらの知見は、令和８年度からの本格実施に向け、より効果的な研修体系の構築に寄与すると考えられる。